

# ニュージーランドの 政策金利引き下げについて

## ポイント① 政策金利を2.50%に引き下げ

12月10日、ニュージーランド準備銀行（中央銀行）は、政策金利であるオフィシャル・キャッシュ・レート<sup>1</sup>を0.25%引き下げ、2.50%とすることを決定しました。利下げは今年に入り、4回目となります。同中銀は前回の金融政策決定会合後の声明で、追加利下げの可能性を示唆していたことから、今回の利下げは市場の大方の予想通りでした。

## ポイント② 緩和サイクルの打ち止めを示唆

今回の決定の背景には、インフレ率の低さがあります。7-9月期のインフレ率は前年同期比+0.4%と、同中銀の目標レンジの+1-3%を下回っています。低インフレの要因として、NZドルが上昇基調にあることや、原油価格が2014年半ばより大きく下落していることなどが挙げられます。このような状況を受け、同中銀は「平均のインフレ率が今後、目標レンジの中央近辺に落ち着くことを確実にするため、金融政策は緩和的である必要がある」とし、今回の利下げを決定しました。

一方で、同中銀は今後の金融政策について、「状況が正当化すれば追加利下げを実施するものの、現行の金利設定でインフレ目標を達成すると見込んでいる」としており、緩和サイクルの打ち止めを示唆しました。

## ポイント③ NZドルは上昇

12月10日午前8時頃の東京外国為替市場では、NZドルは対米ドルで前日比1.7%程度、対円で同0.9%程度のNZドル高となっています。声明で緩和サイクルの打ち止めが示唆されたことなどをを受けて、NZドルは上昇しました。

金融政策と同時に発表された金融政策報告書において同中銀は、2016年度（2016年3月までの1年間）、2017年度、2018年度のGDP（国内総生産）予想を上方修正しました。堅調な経済成長が今後、NZドルの支え要因になると考えられます。

重要  
イベント

12月16日	米金融政策発表
12月17日	GDP(7-9月期)
2016年1月28日	金融政策発表

図1：政策金利の推移

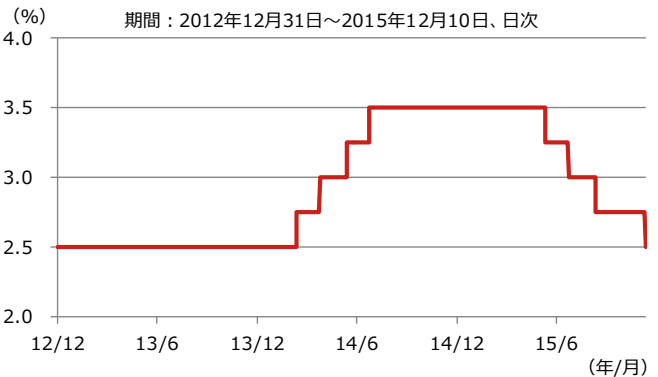


図2：消費者物価指数（前年同期比）の推移

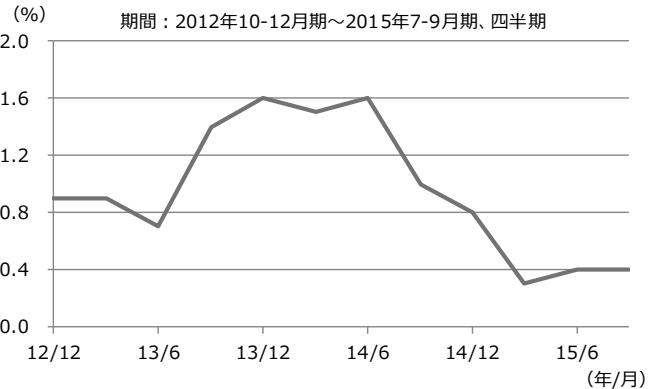


図3：為替レートの推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。